

中山義秀記念文学館企画展

白河と矢吹 詩の息吹

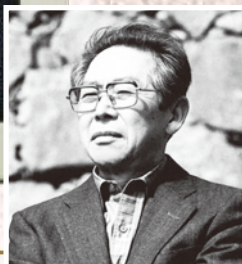
県南地方の詩人たち



大滝清雄



齋藤庸一



小川琢士



菊地啓二



室井大和

2026年9月26日(土)～11月23日(月)

中山義秀記念文学館

白河市大信町屋字沢田25 ☎0248(46)3614

- ・開館時間／10:00～17:00
- ・休館日／月曜日・祝日の翌日

- ・入館料／高校生以上 220円
- 小中学生 110円

ギャラリートーク 10月10日(土) 午後2時～

日本現代詩人会員
阿部正栄氏(矢吹町)

形にとらわれず、自由な内容、形式でつくる詩に魅せられた詩人は福島県に多くいます。その中で、白河市と矢吹町の詩人は県の詩壇を担い、絆を深め、多くの功績を残しました。企画展「白河と矢吹 詩の息吹」では大滝清雄、斎藤庸一、小川琢士、菊地啓二、室井大和の5人に光をあて、その歩みを振り返ります。詩人たちの熱い詩魂にふれてください。

白河市

■**斎藤 庸一**（さいとう・よういち）＜1923（大正12）年～2010（平成22）年＞

豊饒なイメージと物語性に富んだ作品を世に送り出した。詩誌「黒」「詩」の主宰。詩集「防風林」で県文学賞正賞（1956）、詩集「青女一人」で福島民報出版文化賞（1981）を受賞。県文学賞審査委員を務めた。

■**室井 大和**（むろい・やまと）＜1939（昭和14）年～2022（令和4）年＞

日常の情景を切り取る抒情詩を得意とした。小野町生まれ、白河女子高（現白河旭高）などで教鞭をとった。詩集「花筏」で県文学賞奨励賞受賞（2007）。「の」「青い花」など同人。文芸誌「関の森」を発行。詩集に「迎え火」「残照」「遺言」がある。

矢吹町

■**大滝 清雄**（おおたき・きよお）＜1914（大正3）年～1998（平成10）年＞

ネオ・リリシズム（新抒情詩）を提唱、「非連続の連続詩」を掲げた。詩誌「龍」主宰。詩集「三光鳥の歌」で県文学賞詩集賞（1950）、同じく「ラインの神話」で日本詩人クラブ賞をそれぞれ受賞。県文学賞審査委員。県内で詩作の啓蒙活動に努めた。

■**小川 琢士**（おがわ・たくし）＜1928（昭和3）年～2010（平成22）年＞

夢と現実の世界を表現した。詩誌「黒」「の」「龍」「地球」などの同人、45歳の時に「夢・現実」で県文学賞正賞受賞（1973）、県文学賞審査委員。矢吹町「さわやか詩集」審査委員長。県現代詩人会の発足に大きく貢献した。

■**菊地 啓二**（きくち・けいじ）＜1930（昭和5）年～1997（平成9）年＞

常に新しい抒情詩を目指して詩作を続けた。詩誌「の」主宰、「龍」「北方詩人」同人。原稿詩集「凧」で県文学賞準賞受賞（1960）、詩集「消人栓」で福島民報出版文化賞受賞（1995）。「さわやか詩集」審査委員を勤めた。

このほか本展で紹介する詩人

●**三谷 晃一**（みたに・こういち）＜1922（大正11）年～2005（平成17）年＞

福島県現代詩人会初代会長。新聞社勤務の傍ら、詩人としての生き方を貫いた。

●**秋谷 豊**（あきや・ゆたか）＜1922（大正11）年～2008（平成20）年＞

埼玉県出身。日本現代詩人会会長。独自のリリシズムの世界を切り開いた。

●**瀬谷 耕作**（せや・こうさく）＜1923（大正12）年～2014（平成26）年＞

矢吹町生まれ。伝説などに題材をとった叙事詩を生涯にわたり追究した。